平成 20 年度 事務事業評価シート(平成 19 年度実施事業)

整理番号	教生ス05

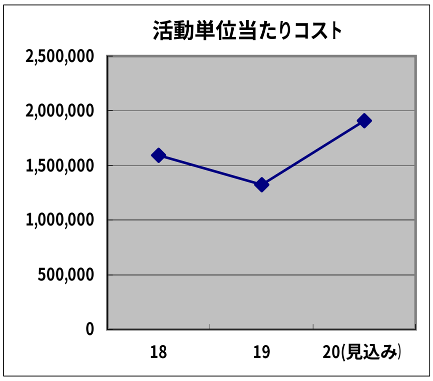
事務事業名		ふれあいドッジボール大会事業	
総合基本計画	**まちづくりの目標(章)**	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち
	施策(節)	4	市民スポーツ・レクリエーション
	施策の方向	(1)	スポーツ・レクリエーションの推進
関連する計画等			

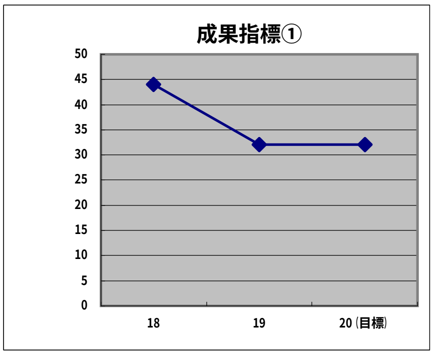
予算科目	**会計**	1	一 般 会 計
	款	10	教育費
	項	6	保健体育課
	目	1	保健体育総務費
	事業	2	体育振興
作成部署			教育委員会事務局学生涯学習室スポーツ振興課
連絡先			072 - 958 - 1111 **内線** 4411

事業の目的	**対象（誰を・何を）**	羽曳野市内の小学３～６年生
	意図（どういう状態にしたいのか）	ドッジボールを通じて体力つくり・仲間つくりを行い、子どもの健全育成を図る。
事業の内容		羽曳野市内の小学３～６年生を対象に、参加部門（小学３・４年生の部・小学５・６年生の部）を２部門で開催する。監督・コーチ・マネージャー各１名と選手１２～２０名以内で構成し、参加費は１チーム１，０００円とし、また審判には大阪府ドッジボール協会の指導の下、大会を開催する。予選リーグを経て上位１～２チームが決勝トーナメントへ進出することができる。例年１１月の土曜日もしくは祝日に大会を開催している。

根拠法令等	スポーツ振興法
事業開始時期	☐ 昭和 ☑ 平成 12 年 月開始 ☐ 明確にはわからない **終了年度** 平成 年度
事業開始時からの状況変化	
市民や議会の要望	
実施手法	☑ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他( )
委託先	☐ 外部団体委託 **名称** ☐ 民間委託
委託内容	

区分		18年度（実績）	19年度（実績）	20年度（見込み）
事業費【1】	(千円)	467	553	531
人件費【2】	(千円)	1,128	768	1,380
職員数 正規職員		0.12 人	0.08 人	0.15 人
職員数 再任用職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
職員数 嘱託職員		0.05 人	0.04 人	0.05 人
職員数 臨時職員		0.00 人	0.00 人	0.00 人
超過勤務(参考)	(時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費（【1】＋【2】）【A】	(千円)	1,595	1,321	1,911
財源内訳 国費	(千円)			
財源内訳 府費	(千円)			
財源内訳 市債	(千円)			
財源内訳 その他 （手数料・使用料等）	(千円)			
財源内訳 一般財源	(千円)	1,595	1,321	1,911
活動指標(事業の活動実績)【B】	**単位**	**18年度**	**19年度**	**20年度(目標)**
① 大会の開催回数	回	1	1	1
②				
③				
活動単位当たりコスト(【A】／【B】①)		1,595,000 円	1,321,000 円	1,911,000 円
市民１人当たりコスト(【A】／人口)		13 円	11 円	16 円


活動単位当たりコスト


成果指標①

成果指標（事業目的の達成度を測る指標）		指標名	指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	達成率(%)	平成20年度
	①	参加チーム数（チーム） (式)	市長杯ふれあいドッジボール大会の参加チーム数	目標	40	44	72.7%	32
				実績	44	32		34
	②	参加者数（人） (式)	市長杯ふれあいドッジボール大会の参加者数	目標	800	817	74.7%	610
				実績	817	610		601

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析･評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	青少年の心身の健全育成、スポーツの普及・振興をするために、今後も市の関与が必要な事業・業務である。
	○			○		○		○			

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析･評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☑	□	□	チーム数は減少しているが、まだまだ市民ニーズが高い。また小学生を中心にした市主催の大会は、ドッジボール大会及びフットサル大会のみであり、今後小学生の体力向上を目的に、夏休みや放課後を利用した教室等ルールやマナーを教えるとともに、スポーツの推進・事業の充実を行っていく。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☑	□	□	
		社会情勢の変化に対応している	□	□	☑	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☑	□	□	
		国･府の事業と重複していない	☑	□	□	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☑	□	□	
		緊急性が認められる	□	□	☑	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☑	□	□	大会を開催するにあたり羽曳野ライオンズクラブ及び株式会社モルテンよりドッジボールの普及のために試合球と練習球を協賛いただいており、受益者負担（１チーム参加費１，０００円）か実現している。
		受益者負担の割合は適当である	□	☑	□	
		人員を削減する余地がない	☑	□	□	
		事業費を削減する余地がない	□	☑	□	
		簡略化できる方法や手段がない	□	☑	□	
		市の他事業と重複していない	☑	□	□	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	□	☑	□	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☑	□	□	地域スポーツを視野に入れながら今後必要な施策を行っていく必要がある。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☑	□	□	
		成果を向上させる余地がない	□	☑	□	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☑	□	□	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☑	□	□	この事業を開始したきっかけとなったのは市民からの企画・立案であったことから、協働性はあると考える。
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☑	□	□	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☑	□	□	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☑	□	□	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☑	□	□	少子化や単位子ども会の減少の影響から、参加チーム数が減少している。
		成果指標の実績値は目標値以上である	□	☑	□	
		成果指標は前年度より向上している	□	☑	□	

担当部局評価

総合評価

□ 拡大･充実　□ 現状維持　☑ 方法改善　☑ 民営化･民間委託　□ 縮小　□ 廃止･休止　□ 完了

評価の理由

小学生を中心にした市主催の大会は、ドッジボール大会及びフットサル大会のみであり、今後も本大会を拡大・充実させることにより、青少年の心身の健全育成を図りたい。

今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）

大会を運営するにあたり、各種団体に人的協力もいただいているが、今後は参加チームより数名のスタッフを出してもらう等役員体制の検討が必要である。